

平成 29 年度事業報告

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

平成 29 年度事業の概要を下記のとおり報告する。

1. 会員の状況

平成 30 年 3 月 31 日現在

会員の種類	当 初	入退会数	現 在
正 会 員	21	2	23
賛助会員	46	1	47
計	67	3	70

入退会内訳

正 会 員

【入会】(4 社) 積水テクノ成型(株)、城東リプロン(株)、大銑産業(株)、帝人(株)

【退会】(2 社) (株)IHI インフラシステム、前澤化成工業(株)、

賛助会員

【入会】(5 社) 東レ ACE(株)、(株)テクノテック、(株)日東ジオテクノ、
(株)IHI インフラシステム、前澤化成工業(株)

【退会】(4 社) 積水テクノ成型(株)、城東リプロン(株)、帝人フロンティア(株)、
世紀東急工業(株)、

2. 社員総会、理事会等の開催

(1) 社員総会

・ 第 6 回定時社員総会

開催日：平成 29 年 6 月 2 日 場所：新木場タワー15F A 会議室

正会員総数 21 名

出席正会員 21 名 (うち委任状によるもの 3 名)

議事 (決議事項)

第 1 号議案 平成 28 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 28 年度計算書類及び財産目録承認の件

第 3 号議案 平成 29 年度役員報酬承認の件

第 4 号議案 役員選任の件 (理事の辞任に伴う補充)

(報告事項－第 14 回理事会決議事項)

① 平成 29 年度事業計画書報告の件

② 平成 29 年度収支予算書報告の件

決議事項の第 1 号議案から第 4 号議案については、審議の結果事務局原案

のとおり承認可決された。

(2) 理事会等

- ・社内監査（平成 29 年 5 月 11 日）

監事 2 名による、平成 28 年度の収支及び財産の状況並びに理事の業務執行状況について監査が行われ、いずれも適正であるとの承認を受けた。

- ・第 15 回理事会（書面決議）（平成 29 年 5 月 16 日）

上記理事会を決議の省略（書面決議）により開催し、第 6 回定時社員総会への提出議案である「平成 28 年度事業報告及び決算関係書類」の審議を行い、いずれも事務局原案のとおり全員一致で承認された。

- ・第 16 回理事会

開催日：平成 29 年 10 月 25 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 9 名 出席理事数 7 名 出席監事 2 名

議案（報告事項等）

(1) 役職理事の職務執行状況報告

(2) 第 33 回技術講習会の開催について

- ・第 17 回理事会

開催日：平成 30 年 3 月 9 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 9 名 出席理事数 6 名 出席監事 2 名

議案（決議事項）

(1) 平成 30 年度事業計画書及び収支予算書等承認の件

(2) 平成 30 年度役員報酬承認の件

(3) 定時社員総会の日時及び場所並びに目的事項等承認の件

(4) 新入会員の選考について

（報告事項等）

(1) 役職理事の職務執行状況について

(2) 平成 29 年度決算見込みについて

決議事項の 3 件については、審議の結果、事務局原案のとおり承認可決された。

(3) 常設委員会 () は開催回数

- ① 企画委員会 (2 回)

委員長：日本工営(株) 中嶋 規行

- ② 編集委員会 (4 回)

委員長：首都大学東京 教授 河村 明

- ③ 編集小委員会 (4 回)

委員長：日本工営(株) 内山 雄介

- ④ 評価認定委員会 (4 回)

委員長：東京大学名誉教授 虫明 功臣

3. 調査、研究

(1) (都市河川流域の) 水循環系健全化方策の検討

- ① 建築学会 雨水活用推進小委員会・雨水活用建築ガイドライン改定小委員会
雨水活用関連の最新情報の共有、2011 年発刊の雨水活用建築ガイドライ

ンについての法律等、社会制度の変化に伴う改定版の作成

- ② プラスチック製地下貯留槽共同研究会による調査研究業務
 - ・昨年（一財）ベターリビングにおいて、一斉実施したプラスチック製品メーカー12社の圧縮及びクリープ試験（水平・鉛直）結果を基に、平成25年度版のプラスチック製地下貯留浸透施設技術指針（案）に記載の試験方法及びクリープ規定の見直しを行った。
 - ・新たなクリープ規定に基づいた技術評価取得済プラスチック貯留構造体の圧縮及びクリープ試験の実施（ベターリビング）

（2）雨水貯留浸透施設の効果評価の検討

- ① 太陽光発電施設設置に伴う流出抑制施設検討業務
 - ・小諸市大久保地区メガソーラ開発に伴う流出抑制調査
 - ・栃木県宇都宮市周辺
- ② 現地浸透能力調査
 - ・「稲毛東計画」現地浸透試験（秩父ケミカル）
 - ・「横浜市 万騎が原第四公園」現地浸透試験（東邦レオ）
- ③ 昭島つつじが丘ハイツにおける雨水流出抑制効果検証業務
（都市機構：28年度より継続、8月完了）
昭島つつじが丘ハイツにおける35年間の流出抑制効果検証のまとめ、及びURの流出抑制への取組み広報パンフレットの作成
- ④ 空衛学会 建物における雨水対策検討小委員会
局所的集中豪雨への対応策としての雨水利用施設の見直し、建築設備分野における宅地内での雨水の貯留、浸透技術の検討
- ⑤ 世田谷区高橋邸における雨水活用効果に関するモニタリング

（3）全国における貯留浸透施設普及状況の実態把握と普及方策の検討

- ① 平成29年度雨水利用の推進のための普及啓発検討業務（NKとのJV）
（国交省 水資源部）
地方公共団体における雨水利用推進の現状とその課題を把握し、雨水利用推進のための「都道府県方針」「市区町村計画」策定支援の方法の検討を行う
- ② 雨水活用施設先進事例調査分析業務（埼玉県）
全国の最新雨水利用事例の収集、分析を行い、埼玉県下の中小規模事業者での雨水利用施設普及を図るためのツールとなる事例集の作成を行う
- ③ GBM（グリーン・ビジネス・マネジメント）共同研究会（都市緑化機構）
グリーンビジネスにおける雨水の貯留・浸透・利用普及の検討及び海外・国内のグリーンインフラ情報の収集

（4）雨水貯留浸透技術のアジアモンスーン地域への展開検討

- ① 後述する国際会議や国際交流を通じて、情報収集やネットワークの構築を行った。
- ② JICA 中小企業海外展開支援事業
 - ・「インド国：水需給ギャップを埋めるプラスチック製雨水地下貯留システ

ムの普及・実証事業」

(株)トーテツ：協会は外部人材として参画

・「タイ国：プラスチック製雨水貯留構造体の案件化調査」

秩父ケミカル(株)：協会は外部人材として参画

4. 技術指針等の整備

- ・水資源部や埼玉県の受託業務で収集した雨水利用の事例や貯留槽の適正規模の簡易算定手法等を、雨水利用ハンドブックの改訂に反映させる。
- ・プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針（案）平成30年度版の改訂案作成

5. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動

(1) 図書等の発行・配布

① 季刊誌「水循環 貯留と浸透」 第105号～108号

各号特集報文タイトル

105号「雨水管理の最先端技術（その2：水位）」

106号「雨水管理の最先端技術（その3：情報）」

107号「雨水管理の最先端技術（その3：施設）」

108号「水害に備えた実践教育」

② 雨水浸透施設技術指針等発行図書の販売

(2) 技術講習会・施設見学会の開催

第33回 雨水貯留浸透技術講習会

開催日：平成29年11月16日

会場：新木場タワー1F大ホール

受講者数：自治体職員、会員企業等90名

『講習会プログラム』

題 目	講 師
治水行政に関する最近の動向	国土交通省 水管理・国土保全局 治水課 堤防構造分析官 大澤 健司
【特別講演】 グレーインフラからグリーンインフラに向けて ～性能評価システムの果たす役割～	(一社) グリーンビルディングジャパン 代表理事 平松 宏城
【招待講演】 韓国「GISLIDセンターにおける最新の 研究について	釜山大学 教授 Dr. Hyun-Suk Shin
特集【流域水循環計画と雨水貯留浸透】	
最近の水循環施策の動向	内閣官房水循環政策本部事務局 参事官補佐 東郷 友裕
さいたま市水環境プラント水循環	さいたま市環境局環境共生部環境対策課 主査 熊切 信司

八王子市水循環計画と雨水貯留浸透 推進計画について	八王子市水循環部水環境整備課 主任 辻山 洋美、主事 豆成 俊一
「京都市水共生プラン」と京都市の取組	京都市上下水道局下水道部計画課 課長補佐 谷田 聡
【雨水貯留浸透の流出抑制効果】	
35年にわたる雨水浸透工法の効果検証 ～健全な水循環を目指して～	都市再生機構 技術・コスト管理部 都市再生設計課 沼田 大輔
雨水貯留浸透の効果事例と今後の展開	(公社) 雨水貯留浸透技術協会 技術部長 屋井 裕幸

『見学会』 平成 29 年 11 月 17 日 参加者：35 名

・「川から見る東京の水循環」 隅田川、神田川、日本橋川クルーズ

(3) 普及・啓発のための雨水貯留浸透施設の展示・セミナーの開催等

① 第 21 回東久留米市環境フェスティバル (2017.6.10～6.11)

～ きて みて アクション 環境フェスタ ～

上記フェスティバルが東久留米市庁舎にて開催され、当協会は例年通り協賛団体としてイベント等に協力し、会員企業と共同で、「雨水浸透ます」及び雨水貯留浸透技術に関するパネル、パンフレット等の展示を行った。

② Aqua KANSAI 2017 (2017.9.28～29)

関西の行政や企業をターゲットとした、水インフラと水利用を支える技術の提案をテーマにした展示会。開催の後援を行うとともに、協会の活動 PR ならびに技術評価認定技術のカタログを展示し、紹介を行った。

③ 第 18 回法典地域祭 (2017.11.12)

船橋市で開催された上記イベントに、雨水貯留タンクと雨水浸透模型を展示、パンフレットを配布し雨水の貯留浸透技術の PR 活動を行った。

また、雨水貯留浸透技術に関する市民アンケートを行った。

(参加人員：約 700 名)

④ 第 9 回国際水ソリューション総合展 (2018.2.14～2.16)

東京ビッグサイトで開催された Inter Aqua2018 において、会員企業 5 社と ARSIT パビリオンを共同出展した。また、2 月 16 日に ARSIT 雨水活用シンポジウム「雨水の利用の推進に関する法律がもたらしたもの」を開催した。シンポジウムには 150 人を超える参加者があった。

(4) 雨水貯留浸透技術に関する PR 及びパンフレットの作成・配布

・「雨水貯留浸透施設の設置に対する支援措置のご紹介」(27 年度版)

・「21 世紀は、水について考える時代です」(A3 三つ折りパンフ)

・「雨水貯留浸透のススメ」(平成 29 年度版)

・「流域貯留浸透施設のご紹介」(小冊子)

(5) 雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの対応
行政担当者、設計会社、メーカー等からのメール、電話、来訪等による問い合わせ、相談等に対応した。(年間問い合わせ、相談件数は約 100 件)

(6) 雨水貯留浸透技術に関する社外講演及び学会発表 (海外含む)

① 市民団体や関係関連機関等の依頼による講演活動

* 雨水貯留浸透製品工業会講演 (2017.6.21)

講師：忌部常務理事

テーマ：「都市化と水循環」

聴講者：同工業会メンバー約 35 名

* 第 28 回プラスチックプロセスセミナー講演 (2017.6.30)

講師：屋井技術部長

テーマ：「雨水貯留槽部材の構造効果」

聴講者：(一社) 日本塑性加工学会構成員

* 会員企業の依頼による中国公務員に対する講演 (2017.7.18)

講師：円山技術部次長

テーマ：「日本のプラスチック貯留槽の現状とガイドライン」

聴講者：中国公務員 6 名、会員企業 10 名

* 松山市河原学園雨水活用ワークショップ (2017.10.27、11.10、12.1)

講師：大西技術部次長

テーマ：「雨水を活用した建物やまちづくり」

聴講者：建築士を目指す専門学校生 60 名

* 関西ライフライン研究会講演 (2017.11.8)

講師：屋井技術部長

テーマ：「都市水害に備えてグリーンインフラを考える」

聴講者：第 116 回定期大会参加者 約 20 名

* ICHARM 講義 (2017.12.14)

水災害リスクマネジメント国際センター (ICHARM) の海外向け修士課程の学生 14 名に忌部常務理事が「都市河川の総合的流域管理」と題して、講義を行った。その後、一行は鶴見川多目的遊水地、川和遊水地、高橋裕先生宅の雨水利用を見学した。

② 海外国際会議等での発表

* 韓国 LID シンポジウム (2017.8.10)

釜山に隣接した金海 (Gimhae) 市の仁済 (Inje) 大学にて開催された LID に関するシンポジウムに忌部常務理事が招待され、「日本の都市河川における統合流域管理」と題して講演を行った。(参加者：約 100 名)

* 第 23 回 Indian Plumbing Association コンファレンス&展示会

(2017.9.22~9.23)

首記コンファレンスが、インド・タミルナドゥ州のチェンナイで開催され、協会より屋井部長が「日本における流出雨水の制御に関する政策と技術、及びチェンナイにおける JICA 雨水利用プロジェクト」と題して、9 月 22 日のテクニカルセッションで講演を行った。(参加者：約 700 名)

- * 現代城市総合治水規則と策略及び工程技術応用国際シンポジウム
(2017.9.23～24)
首記シンポジウムが、中国の青島市で開催され、協会より忌部常務理事が「日本における都市河川の統合管理」と題して、講演を行った。
(参加者：約 80 名)
- * 韓国 LID&GI セミナー（釜山大学）（2017.10.19～21）
プサン大学との技術交流 MOU の一環として、プサン大学主催のセミナー「気候変動と都市へのグリーンインフラの適用」において、協会より屋井部長が「日本における水循環政策とグリーンインフラの現状」と題して、講演した。
(参加者：約 50 名)
- * 第 15 回慶南水フォーラム（2018.3.22）
韓国昌原市にて開催された首記フォーラムの分科会（テーマ：グリーンインフラ、LID、水循環）にて、忌部常務理事が「健全な水循環に関する最近のトピックス」と題して、プレゼンテーションを行った。
(参加者：約 40 名)

(7) 雨水貯留浸透技術のデータベースの作成及び情報提供

平成 29 年度に国交省水資源部で実施した水需給動態調査の成果である雨水・再生水利用施設のデータの提供を受け、データベースに反映した。

6. 雨水貯留浸透技術評価認定

平成 8 年 6 月 1 日に雨水貯留浸透技術評価認定制度がスタートし、昨年度までに技術評価認定書 44 件、OEM 版 3 件、技術推薦書 6 件、製品評価書 18 件を交付した。今年度は下記の 8 件（技術評価 4 件、技術推薦 1 件、製品評価 3 件）の認定書を交付した。

【平成 29 年度評価認定書交付実績】

年度	No.	申請者	対象技術・対象製品
29	41	城東テクノ株式会社 株式会社サムシング	JS ドレーン工法
	42	秩父ケミカル株式会社	ニュープラ工法
	43	天昇電気工業株式会社	テンレイン・スクラム工法
	44	株式会社プラント・ツリース	スーパージオ工法
	6	株式会社 ホクコン	M.V.P システム (技術推薦)
	16	東邦レオ株式会社	雨水貯留浸透機能付き植栽基盤材 レインガーデンソイル (製品評価)

	17	関西ポラコン株式会社	浸透ポラコン枡 EMBX2 シリーズ (製品評価)
	18	帝人株式会社	(仮称) 透水性舗装セル (製品評価)

7. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力、提言等

① 公共機関への協力提言等

主に地方自治体からの雨水貯留浸透技術に関する問い合わせ、来訪等による相談に対応した。

② 海外からの調査団等の受け入れ対応

* 韓国釜山大学来訪 (2017.5.22)

プサン大学工学部地盤工学科のアン (Jaehun Ahn) 准教授と修士課程学生 2 人が来協し、忌部常務理事、屋井部長及び会員企業の日本道路社員 (3 名) を交えて、低影響開発や透水性舗装に関する情報交換を行った。

* インド国企業来訪 (2017.5.22～5.25)

今後インフラ整備が加速するインドにおいて、住宅建設分野での日本からの製品供給、技術供与、業務提携等の可能性を調査するため、グループ企業である電設会社の HYTECH 社と建設会社の URATIONTECH 社から 3 名 (役員クラス) が来訪。屋井部長が会員企業も含めた関連企業との会合を企画し、対応した。

* 韓国土地住宅公社来訪 (2018.12.18)

韓国土地住宅公社より 3 名が、協会に来訪した。忌部常務理事より日本の都市河川流域の統合管理の制度、事例などの紹介を行い、意見交換を行った。

* 韓国建設技術研究院来訪 (2017.12.21)

韓国建設技術研究院の道路関係の研究者、趙女史が協会に来訪し、意見交換を行うと同時に、協会から日本の道路に係わる雨水貯留浸透施設に関する情報を提供した。

* 中国清華大学来訪 (2018.1.24)

日本の水に関する技術を学ぶため、清華大学学生 18 名が当協会に来訪し、協会職員の引率で目黒天空庭園、首都圏外郭放水路を見学した。

③ 第 10 回雨水ネットワーク全国大会 2017 in 広島 (2017.8.4～8.5)

～里山が育む 雨の恵みを醸す 伝統の酒文化～

平成 20 年の第 1 回東京都に始まり、福岡市、松山市、大阪市、東京都、仙台市、福井市、愛知県、東京都を経て、第 10 回は東広島市で開催された。当協会は前回より実行委員会事務局として企画・運営に携わっている。

④ 建築学会等外部組織との連携による普及・調査研究業務の実施

* 建築学会 雨水活用推進小委員会・雨水活用建築ガイドライン改定小委

員会雨水活用関連の最新情報の共有、2011年発刊の雨水活用建築ガイドランについての法律等、社会制度の変化に伴う改定版の作成

* 都市緑化機構 GBM 共同研究会

グリーンビジネスにおける雨水の貯留・浸透・利用普及の検討及び海外・国内のグリーンインフラ情報の収集

* 空衛学会 建物における雨水対策検討小委員会

局所的集中豪雨への対応策としての雨水利用施設の見直し、建築設備分野における宅地内での雨水の貯留、浸透技術の検討

※ 平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。